

がんを防ごう



超音波検査受診を

製鉄病院・産婦人科長語る

オール室蘭でがん対策を進める「室蘭がんフォーラム」の会合が29日、室蘭市保健センターで開かれた。製鉄記念室蘭病院の恐神博行・産婦人科長Ⅱ写真Ⅱが「婦人科がんの診断と治療」と題して講演し、2年に1度の子宮がん検診で、超音

波検査も受診するよう訴えた。

市や医療機関、マスコミなどから約20人が出席した。恐神科長は子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんについてそれぞれ原因や検診法を解説した。検診について「子宮頸が

ん検診のみを希望する人が多い」と指摘。ただ、子宮体がんや初期段階で発見することが難しい卵巣がんを予防するためには超音波検査も受診する必要がある、「必ず受けた方がいい」と訴えた。

子宮がんの受診率の国際比較も示し、米国など先進諸国では7割前後が受診するのに対し、日本は約3割にとどまっていると説明した。(生田憲)